

第33号

酪農とちぎ



秋の深まりとともに南下する紅葉前線は、残暑の影響で遅れ気味ですが、高く澄んだ空に清々しさを覚えながら、燃えるような山々に魅せられる季節が訪れました。



皆様におかれましては、秋の農作業・収穫祭等と多忙の日々をお過しと存じます。また、いよいよ「とちぎファームフェスタ2005」の開催が秒読みとなり、出品者・関係者は余念無く準備を進めているところであります。とちぎ全共は、「ミルクの国とちぎ」をPRすると共に、多くの県民がどなたでも参加できるように多彩なイベントを準備してご来場をお待ちしております。



生乳生産・消費にかげり

那須高原支所・CS新設稼働

早くも、組合事業は上半期が経過したところですが、各事業の進捗概況をお知らせします。

今年は、心配した台風被害もなく好天に恵まれ、米・果樹・飼料作物等とも豊作の年となりました。しかし、米価の低迷、WTO農業交渉等の課題を考えると、豊作感も薄らぐ農業情勢です。

最近の酪農事情は、依然止まらぬ出荷戸数・飼養頭数の減少、搾乳素牛高騰等の影響により生乳生産の減少傾向が続き、四、九月の全国では前年比九九・三%、関東



最新の施設が完備された高原CS

九八・一%で推移しております。

一方、消費の伸びも前年比九六%と低迷、従って加工向けが前年比一〇一・五%となり、脱粉在庫の積み増しが懸念されることから余乳対策と共に、飲用向け消費拡大運動としてテレビコマercial及びキャンペーン、牛乳に相談だ・「3 A Day」を全国的に展開しているところです。

組合事業は、四月二日恒例行事のひとつ「第四回酪農まつり」を開催、新年度事業のスタートに続き、昨年新設着工の那須高原支所及びCSが予定通り完成したことにより、四月に支所、六月から新CSが稼働いたしました。

また、今年には組合の役員改選期であることから、六月の総代会において新役員が選出され、常勤三名による執行体制となりました。

生乳生産は、十万六千百四十四トン（計画比九八・五%、前年比九七・九%）の実績となりました。前年を下回った要因は、前年増産による受胎の遅れ、出荷戸数十七

戸の減、成牛頭数三一七頭の減少、初妊牛価格の高止まりによる更新の停滞等によるものと分析しております。先の飼養調査を見ますと、今後の分娩が前年を超える予定となっており、これから増産に転じるものと予測しております。

市乳販売は、消費が伸び悩む中、茶・スポーツドリンク系との競合、低価格競争に遭い、売上本数七百七十八万本（計画比八五・七%）と苦戦しております。依然として、市場は大変厳しい状況にあり、今後不需要期を迎え一層激化が予想されます。また、少家族・若年層向きに七月より「那須だいき牛乳五〇〇cc」を新発売し、拡販に努めています。

購買事業は、新年度より各支所に推進担当者を配置して、飼料の適正給与・生産資材の情報提供等を行いながら組合利用を進めた結果、濃厚飼料四万九千トン、（計画比一〇〇・四%）、粗飼料二万八千二百トン（計画比一〇一%）の実績でした。なお、十月より乳配価格がトン当たり八百円、育成配千円の値下げ、哺育飼料五千円値上げとなりました。

指導事業は、安全・安心な良質乳生産をめざし、生産現場の環境

整備・美化を推進しました。また、搾乳素牛の確保を図るため、自家育成・預託を進めて参りました。

組織活動は、支所活動推進協議会活動を中心に、地域酪農組合・青年部・女性会組織の支援を行なっていました。

外国人研修生受入れ事業は、昨年に続き公募したところ、組合員九戸より十名の希望があり、五月に受入れました。

指導診療は、四月より従来の臨床から乳房炎防除・繁殖検診等の予防診療に徹しているところです。牧場事業は、健康な後継牛づくりを目指し、ふれあい牧場を起点に小林放牧場・県有土上平牧場を並行利用することにより効率的運営に努めております。

施設合理化事業は、那須高原支所・CS新設により、旧西那須野CSを閉所しました。県南支所の新設につきましては、先日建設委員会を設置しましたので、今後同委員会において協議を重ね、基本計画を策定することとなります。

資本造成第三年度における増資額は、各位のご理解ご協力により七千二百八万円となり、累計では四億四千七百万円が造成されました。



とちぎファーム フェスタ2005 出品牛出揃う

ホルスタイン、ジャージーの出品牛が出揃い、いよいよ「とちぎファームフェスタ2005」が目前となりました。ホルスタインは全国各地の代表牛三百頭、ジャージー六十頭が出品します。出場牛の会場搬入は十月二十八日より開始され、十一月二日には前夜祭が行われ、三日よりいよいよ開催となります。

注目される共進会は十一月四日、五日が審査となります。また、高円宮妃殿下のご台覧、千人規模のバター作り体験などのアトラクション、高校生対象の牛の見方と序列づけ勉強会なども予定しており、多くの参観者が見込まれます。皆さんお誘い合わせの上是非会場に足を運んでください。

第12回全日本ホルスタイン共進会及び第4回全日本ジャージー共進会栃木大会 栃木県代表牛 (ホルスタイン種第1部～第12部)

出品部別	市町村	出品者名	出品牛名号	所属
1	那須塩原市	白井 勉	グリーンスター コラ ダーハム	酪農とちぎ
	今市市	植木 靖	プラントツリー AJ インテ ダーハム	栃 酪
	那須塩原市	小針 勤	コバリ エミリア エレガンス ET	酪農とちぎ
2	那須町	小松 俊介	マウンテンジャム ラストワン エアロ インテグリティー	酪農とちぎ
	矢板市	山本 修	キクイチ マダム キット ロイ	酪農とちぎ
3	那須塩原市	菊地 次男	テーブルランド ロイ フェーリー	栃 酪
	鹿沼市	栃木県立鹿沼農業高等学校	プラントツリー AB ダーハム	栃 酪
	那須烏山市	菊池 善也	キクイチ マダム ジャベラー ランド	酪農とちぎ
4	那須塩原市	和田 泰	リージェント ドラマチック チャンピオン	酪農とちぎ
	那須塩原市	栃木県立那須拓陽高等学校	タクヨウ エランド チャンピオン	酪農とちぎ
5	那須塩原市	大沼 辰徳	レインボーファーム プロGRESS マック ダイナ	栃 酪
	那須塩原市	和泉 正行	スノーライト スウィート クルーズ	酪農とちぎ
	茂木町	羽石 智昭	ウイング マドキャツプ チャンピー ホープ	酪農とちぎ
6	那須塩原市	栃木県立那須拓陽高等学校	タクヨウ ベリン インテグ チャンピオン	酪農とちぎ
	那須塩原市	永森 洋一	LWLF プリンセス アディー チャン	栃 酪
	今市市	植木 靖	プラントツリー ABE アウトサイド	栃 酪
7	市貝町	大滝 信夫	コージー ロング ロイアーロン	酪農とちぎ
	那須町	石川 正勝	フリーフライト ミックス クスター	酪農とちぎ
	那須塩原市	人見 次男	クイーン メープル テツシー ジエツド ET	酪農とちぎ
8	那須塩原市	人見二三夫	グリーン エバー ウォーク ジャーナリスト	酪農とちぎ
	宇都宮市	川田 佳男	リバーファーム エステイメイト ダーハム クツキー	酪農とちぎ
	那須塩原市	眞嶋 大輔	スノーライト R アイーン ET	栃 酪
9	那須町	今 耕一	ケーアイレディ ホームステッド ダーハム ナイト	酪農とちぎ
	那須烏山市	中山 智之	ビツクマウンティン ゴールド ダーハム	酪農とちぎ
	那須町	ウエルシーファーム	ウエルシー ディーン ルーベンス ET	北那須
10	さくら市	物井 昭夫	シンフォニア ベツスパーク アンコール	酪農とちぎ
	宇都宮市	駒場 久	コマバファーム ハイポイント インテグリティ	酪農とちぎ
	那須町	清水 時雄	スマ エコーホルム アイガー	酪農とちぎ
	那須塩原市	小針 勤	コバリ クロシルド ダーハム レイナ	酪農とちぎ
11	那須塩原市	永森 洋一	LWL ヒンベル ランツ	栃 酪
	那須烏山市	中山 真介	エスプランサ レブロン レイジー ファースト ダーハム ET	酪農とちぎ
	那須塩原市	和田 泰	リージェント リーダー キム	酪農とちぎ
12	今市市	鷹箸 稔	192 タカノハシ ミックス アストロ	酪農とちぎ
	那須町	佐久間隼人	ナス プレリー ブラック ジュラー	酪農とちぎ

(ジャージー種第1部～第4部)

出品部別	市町村	出品者名	出品牛名号	所属
1	那須塩原市	今井 武	イマイファーム サンダー プライドン ET	栃 酪
2	芳賀町	岡田 純行	オカダファーム プリテイ ベヨンジュン	酪農とちぎ
3	那須塩原市	白井 勉	オカ エッチ カウンシラー レスター	酪農とちぎ
4	那須町	斉藤 章	ブレイメア ジュード エース	酪農とちぎ



乳牛飼養動態調査より

九月一日現在の乳牛飼養動態調査がまとまりましたので、お知らせします。

出荷者は六八六戸、期間中の酪農中止者は一九戸ありましたが、再出荷者が二戸あり、実質の減少は十七戸（二・四％）でした。

総飼養頭数は、三八、九一八頭と前年より一三八頭（〇・四％）増加、一戸当り五六・七頭（一・六頭増）になっていきます。

内訳を見ますと、成牛（経産牛と初妊牛）は二九、九一三頭と一七頭の減少、育成牛は九、〇〇五頭と四五五頭増加しており、育成牛の保有率は三〇・一％で前年に比べると一・八ポイント増加しています。

成牛頭数が減少した要因には、酪農中止者による三〇四頭減が主たることと考えられますが、これを階層区分で比較すると、一戸当たり一頭から五頭減った出荷者が

二六五戸（三七％余）おり、この階層で七〇五頭減っています。反対に一頭から五頭増えた出荷者は二〇一戸（二八％余）、この階層で四八九頭の増加になっており、これらの階層を比較すると二一六頭の減少となります。公社営事業等で規模拡大が進む反面、酪農中止者や初妊牛高騰により乳牛の更新が出来ず、また後継牛が少なかつたことなども頭数減少の要因と推察されます。

また、今年三月から八月までの分娩実績から、分娩頭数は一一、七二四頭で内乳牛の雌は三、一〇〇頭（二六・四％）でした。また九月から翌年二月までの分娩予定頭数は一一、二八六頭と前年より五十四頭増加見込みです。このうち胎内ホルスが七、六九四頭おり、仮に五〇％に雌が生まれれば、育成牛の増加が図れるものと期待されます。初妊牛の高値は今後も続くものと予想されますので、引き続き公共牧場、預託事業等を活用し後継牛確保、育成に努めて下さい。

乳牛飼養動態調査表

平成17年9月1日現在

支所別	調査年	出荷者数	飼養頭数							1戸平均飼養頭数	月別分娩頭数						
			成牛				育成牛未種付牛	外部預託牛	合計		9月	10月	11月	12月	1月	2月	合計
			搾乳	乾乳	初妊	小計											
那高支	H17.9	410	13,261	2,124	2,162	17,547	4,325	1,104	22,976	56.0	1,241	1,240	1,165	1,253	1,258	1,093	7,250
	(構成比)		57.7%	9.2%	9.4%	76.4%	18.8%	4.8%	100.0%		17.1%	17.1%	16.1%	17.3%	17.4%	15.1%	100.0%
	H16.9	417	13,540	2,100	2,092	17,732	4,243	1,179	23,154	55.5	1,172	1,162	1,248	1,280	1,277	1,138	7,277
	(構成比)		58.5%	9.1%	9.0%	76.6%	18.3%	5.1%	100.0%		16.1%	16.0%	17.1%	17.6%	17.5%	15.6%	100.0%
	増減	-7	-279	24	70	-185	82	-75	-178	0.5	69	78	-83	-27	-19	-45	-27
宇都宮支	H17.9	129	3,742	628	762	5,132	1,330	294	6,756	52.4	415	351	353	360	331	323	2,133
	(構成比)		55.4%	9.3%	11.3%	76.0%	19.7%	4.4%	100.0%		19.5%	16.5%	16.5%	16.9%	15.5%	15.1%	100.0%
	H16.9	132	3,831	616	722	5,169	1,365	367	6,901	52.3	354	343	368	391	377	323	2,156
	(構成比)		55.5%	8.9%	10.5%	74.9%	19.8%	5.3%	100.0%		16.4%	15.9%	17.1%	18.1%	17.5%	15.0%	100.0%
	増減	-3	-89	12	40	-37	-35	-73	-145	0.1	61	8	-15	-31	-46	0	-23
栃県支	H17.9	147	5,708	903	623	7,234	1,602	350	9,186	62.5	515	547	467	464	479	431	2,903
	(構成比)		62.1%	9.8%	6.8%	78.8%	17.4%	3.8%	100.0%		17.7%	18.8%	16.1%	16.0%	16.5%	14.8%	100.0%
	H16.9	154	5,923	782	624	7,329	1,047	349	8,725	56.7	514	511	444	484	464	382	2,799
	(構成比)		67.9%	9.0%	7.2%	84.0%	12.0%	4.0%	100.0%		18.4%	18.3%	15.9%	17.3%	16.6%	13.6%	100.0%
	増減	-7	-215	121	-1	-95	555	1	461	5.8	1	36	23	-20	15	49	104
小計	H17.9	686	22,711	3,655	3,547	29,913	7,257	1,748	38,918	56.7	2,171	2,138	1,985	2,077	2,068	1,847	12,286
	(構成比)		58.4%	9.4%	9.1%	76.9%	18.6%	4.5%	100.0%		17.7%	17.4%	16.2%	16.9%	16.8%	15.0%	100.0%
	H16.9	703	23,294	3,498	3,438	30,230	6,655	1,895	38,780	55.2	2,040	2,016	2,060	2,155	2,118	1,843	12,232
	(構成比)		60.1%	9.0%	8.9%	78.0%	17.2%	4.9%	100.0%		16.7%	16.5%	16.8%	17.6%	17.3%	15.1%	100.0%
	増減	-17	-583	157	109	-317	602	-147	138	1.6	131	122	-75	-78	-50	4	54
団公共機関	H17.9	6	76	41	16	133	46	31	210	35.0	11	9	18	9	6	10	63
	(構成比)		36.2%	19.5%	7.6%	63.3%	21.9%	14.8%	100.0%		17.5%	14.3%	28.6%	14.3%	9.5%	15.9%	100.0%
	H16.9	5	68	18	8	94	31	0	125	25.0	6	4	7	2	2	3	24
	(構成比)		54.4%	14.4%	6.4%	75.2%	24.8%	0.0%	100.0%		25.0%	16.7%	29.2%	8.3%	8.3%	12.5%	100.0%
	増減	1	8	23	8	39	15	31	85	10.0	5	5	11	7	4	7	39
合計	H17.9	692	22,787	3,696	3,563	30,046	7,303	1,779	39,128	56.5	2,182	2,147	2,003	2,086	2,074	1,857	12,349
	(構成比)		58.2%	9.4%	9.1%	76.8%	18.7%	4.5%	100.0%		17.7%	17.4%	16.2%	16.9%	16.8%	15.0%	100.0%
	H16.9	708	23,362	3,516	3,446	30,324	6,686	1,895	38,905	55.0	2,046	2,020	2,067	2,157	2,120	1,846	12,256
	(構成比)		60.0%	9.0%	8.9%	77.9%	17.2%	4.9%	100.0%		16.7%	16.5%	16.9%	17.6%	17.3%	15.1%	100.0%
	増減	-16	-575	180	117	-278	617	-116	223	1.6	136	127	-64	-71	-46	11	93



東西南北

那須高原支所

小針牧場視察

去る九月五日、女性会那須支部役員は地元にある青木の小針秀夫牧場を視察しました。小針さんは雨の降る日にもかかわらず快く視察を受けていただきました。

小針牧場は組合の乳質表彰を三年連続受賞され、後継者も就農し、哺育舎と堆肥舎も新築され、充実した経営基盤が確立されています。小針家のモットーは、「毎日忙しくて子供達との交流が無くなる事のない様な仕事をしよう。」との事で、定休型ヘルパー利用で毎月三回は利用し、楽農にするよう心がけています。視察参加者は、哺育舎を見学したときに敷料に興味をもたれ、仕入先や値段について聞いていました。約二時間の視察でしたが、参加者一同大変意義のある研修会でした。

宇都宮支所

支所活動推進協議会、三地域酪農組合「牛舎並びに周辺環境整備事業」実施

境整備事業」実施

支所協議会並びに地域酪農組合事業の一環として、牛舎環境整備事業（巡回審査）を地域役員、青年部役員と、那須南地域においては、環境美化に欠かすことの出来ない女性会役員も審査員となり、三日間の日程で実施しました。

各農家とも常日頃、牛舎並びにその周辺の環境美化に努められていることが伺われました。また衛生管理に関する記録帳や消毒槽を設置している農家が、昨年に比べ着実に増えてきている状況でした。

今後も、訪問者に胸の張れる、見せる酪農」を目指していただきたいと思えます。

栃木県南支所

栃木県南支所堆肥共励会開催

栃木県南支所活動推進協議会主催による第二回堆肥共励会現物審査会並びに講演会・表彰式が、十月十一日に上三川町「多功コミュニケーションセンター」にて出品者・関係者等二十九名が参加し開催されました。

この共励会は、家畜排泄物の管理の適正化及び資源の有効活用の観点から、酪農家の堆肥に関する意識を高め、良質堆肥の生産を促進、及び堆肥の利用・普及に努め、酪農経営の発展に資することを目的とするもので、今回は二十検体の出品がありました。

現物審査（官能評価）は審査委員長の農業試験場環境技術部長伊藤良治氏を始め、畜産試験場・農業環境指導センター・畜産協会等の方々に審査をしていただき、また、化学分析は雪印種苗株の協力で実施しました。

審査の結果は次の通りです。

優秀賞

- 大島 浩氏（芳賀町）
 - 海老原哲夫氏（南河内町）
 - 井上 了一氏（壬生町）
 - 市川 則之氏（二宮町）
 - 岡田 純治氏（芳賀町）
- 入賞された方々誠におめでとう



たいと思えます。

講演会では茂木町「美土里館」館長、矢野健司氏を招き「人と自然にやさしい農業を目指して」と題し、有機物リサイクルセンター美土里館の立ち上げ、地域資源を利用した使い易い堆肥作り。また、美土里堆肥農産物として町が認定し、地産地消に取り組んでいる内容を講演していただきました。



ございます。今後共、良質堆肥の生産と利用の普及に取り組んで頂



部課だより

生乳販売課

生乳生産回復の兆し

九年度の生乳生産量は、一六、八七九トン（前年比九九・四％、計画比九九・九％）と、低迷が続いた生産量が回復し、増産の兆しが見えつつあります。

今年の生産は、昨年は猛暑にかかわらず、順調に生産されたことから受胎の遅れ、今年の分娩ピークの遅延等から伸び悩み状況にありましたが、九月後半より増産傾向にあります。

支所別にみますと、高原支所においては前年比九九・七％、宇都宮支所九九・二％、県南支所九八・八％と各々前月を上回る実績でした。

全国の生乳生産動向は、九年度北海道が前年比一〇二・六％、関東九八・九％、全国平均一〇一・一％と全国的にも回復の傾向にあ

るようです。四、九月の累計では北海道一〇〇・一％、関東九八・一％で推移しております。

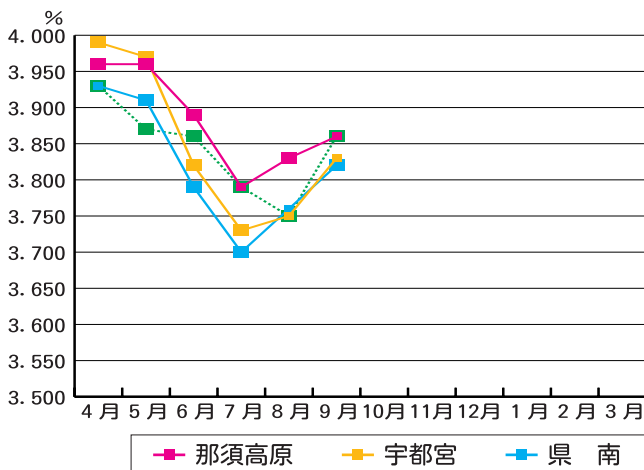
一方、生乳需要は需要が高まる夏場のなか、はつ酵乳向け一〇三・八％、特定乳製品向け一〇五・四％と堅調な伸びになりましたが、飲用牛乳向けは前年比九七・三％と依然低迷が続き、需要が最も多いと言われる九月の関東における加工向けは二・二％となり、脱粉在庫の積み増しが懸念されます。

また、組合の乳質成績は、脂肪率三・八五％、無脂乳固形分率八・七二％、体細胞数二五・四万と酷暑厳しかった環境でしたが向上しております。

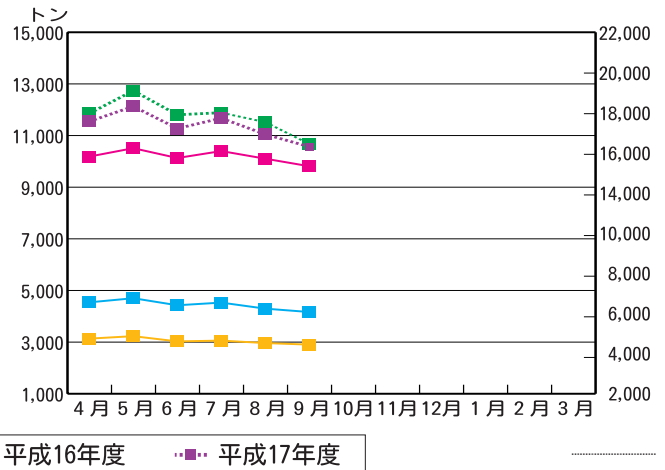
九月までの乳量及び乳質成績は下記のとおりです。



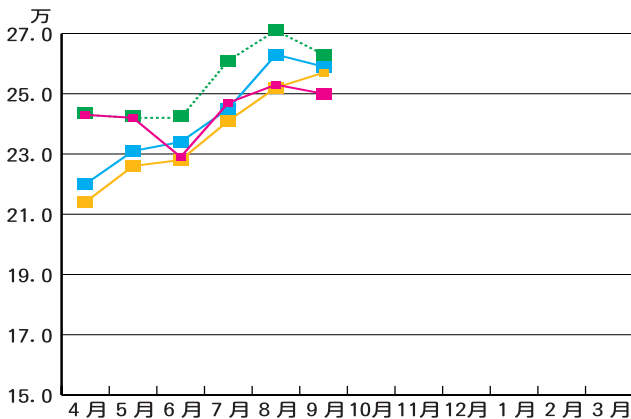
◆ 脂肪率の推移



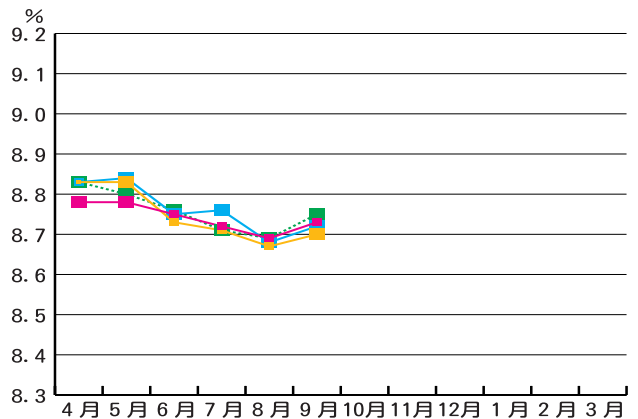
◆ 乳量の推移



◆ 体細胞数の推移



◆ 無脂乳固形分率の推移



酪農部

第十二回全日本ホルスタイン
共進会・第四回全日本ジャージー共進会栃木大会栃木県出品牛最終選抜会開催



ケネスエンピー氏

去る九月二十一日(水)、全農栃木本部矢板



ホルスタイン選抜会

ホルスタイン種第一から十二部とジャージー種第一から四部に分かれて出品されました。組合からはホル

家畜市場において、選抜審査員にカナダホルスタイン協会オントリオ支店理事 ケネスエンピー氏を招聘し開催されました。当日は天候に恵まれ県内各地から一六〇頭が集まり、ホルスタイン種第一から十二部とジャージー



ジャージー選抜会

スタイン種審査に七六頭、ジャージー種審査に五頭が出品されました。



厳正な審査結果、選抜代表牛として、ホルスタイン種三四頭、ジャージー種四頭が決定し、この中に当組合員からホルスタイン種に二名、二五頭、ジャージー種に三名、三頭の本大会出場が決まりました。また、本県出品者結団式が今月

とちぎファームフェスタ2005日程

月 日	時 間	行 事
11月2日(水)	~ 12:00	出品牛搬入(10/28~)
	9:00 ~ 16:00	測定審査(11/ 1~)、写真撮影(10/31~)
11月3日(木)	9:00 ~	オープニングセレモニー
	10:00 ~ 11:30	開会式
11月4日(金)	14:30 ~ 16:30	高校生対象の講習会
	9:30 ~ 12:10	ホルスタイン比較審査(第1部~第4部)
	12:10 ~ 13:00	パノラマビジョンによる出品高校の紹介
11月5日(土)	13:00 ~ 16:20	ホルスタイン比較審査(第5部~第9部)
	9:30 ~ 11:30	ジャージー比較審査(第1部~第4部)
	11:30 ~ 11:50	ジャージー最高位・名誉賞決定審査
	11:50 ~ 12:50	後代検定牛展示パレードと解説
11月6日(日)	13:10 ~ 15:10	ホルスタイン比較審査(第10部~第12部)
	15:10 ~ 15:50	ホルスタイン最高位・名誉賞決定審査
	10:30 ~ 10:50	各部優等賞牛のパレード
	11:00 ~ 11:50	閉会式・褒章授与式

三日、宇都宮市のホテルニューイタヤで開かれました。乳牛の国内オリンピックともいわれる「とちぎファームフェスタ2005」で一致団結して「頑張ろう」と活躍を誓い氣勢を上げました。全国有数の酪農生産県のPRと関係者各位の協力を得て名声を全国に広めてくれるものと期待します。

9月ホクレン初妊牛市場成績

(単位:頭,千円(税込))

市場名	開催日	成立頭数	平均価格	~350	351~400	401~450	451~500	501~550	551以上
十勝	9月9日	485	478	10	31	91	187	130	36
釧路	9月14日	261	471	8	15	66	85	75	12
根室	9月15日	568	496	8	40	73	135	236	76
豊富	9月16日	348	458	7	19	107	169	38	8
北見	9月21日	350	457	9	38	112	120	59	12
十勝	9月26日	405	477	9	24	85	155	99	33
合計		2,417	476	51	167	534	851	637	177
前月		1,818	483	17	113	316	653	586	133
前年同月		2,343	478	44	170	492	885	544	208

家畜市場成績

平成17年9月

(単位:円(税込))

市場名	種 別	成立頭数	平均体重	最 高	最 低	平 均
西那須野	ホルス雄	202	-	66,150	110	31,297
	F1雄	107	-	218,150	86,100	161,916
	F1雌	90	-	135,450	56,700	98,560
館林	ホルス雄	6	72	51,000	38,000	43,833
	F1雄	7	74	201,000	152,000	178,000
	F1雌	9	73	143,000	100,000	125,889



理事会だより

九月度理事会

報告事項

- (一) 資金貸付について
- (二) 九月分生産者支払乳価について
- (三) とちぎファームフェスタ2005について
- (四) 乳牛動態調査について

協議事項

- (五) 専門委員会報告について
- (一) 八月度事業実績について
- (二) 総代選挙に伴う担当者等選任について
- (三) ふれあい牧場の休憩直売所の利用変更について
- (四) 県有牧場の指定管理者制度について

お知らせ

総代百九十名が決定

総代選挙規程に基き、選挙による総代選出を行う手順を進めてまいりましたが、地域酪農組合よりの推薦者以外の立候補者がなく、無投票当選が確定致しましたので、別表（総代名簿）の通りご報告致します。

ハーフ・タイム



改革・刺客・新党等話題を呼んだ衆院選も、与党の圧勝で終わった。各党の公約PRに熾烈な舌戦も、有権者は単純明快な公約を選択し、改革推進を託した。しかし、大勝におこる時間はない。経済・福祉・外交問題等を抱え早急に取組まなければならない。公約実現と景気浮揚対策に期待したい。

十月十日は「体育の日」、東京オリンピック開催を記念して制定された祝日だが、各地で様々なイベントが催された。普段、時間に追われ疎遠がちな地域の人達と共に汗を流し、親睦を深めるのも大切な社交のひとつ。

昭和三十九年の東京五輪では、お家芸の体操・柔道等が活躍、な

かでも「東洋の魔女」と称された女子バレー優勝は、国民に感動と活力を与え、高度経済成長期の幕開け当時を懐古する。北京五輪を目前に、今、中国経済は飛躍的な発展を成している。北京の次はロンドンに決定しているが、その次の開催招致に東京都・福岡県が名乗りを挙げていることは朗報と言えよう。

最近、耳にする言葉に「ニート」がある。ニートとは、学校にも行かず、仕事もせず、職業訓練も受けていない十五歳から三十四歳までの若者を指すようだが、昨年度は全国で約六十四万人、本県にも一万二千人いると言つ。毎日自由奔放、優雅な生活と思うが、とてもないことになる。

ニート族が増加すれば、生産・消費力が低下し、未婚・少子化、更には年金・納税にも影響を及ぼ

す。国も重要な問題として、若者の自立支援対策を地方自治体に委ねているが、本県でも国の指定を受け、職業訓練パウチャーモデル事業」を、また先頃、NPO法人が市貝町に「若者自立塾栃木」をスタートさせた。若者よ、早く自覚め自立心の高揚に努めよ。

「とちぎ全共」がいよいよ開幕する。十一月三、六日間、壬生町羽生田の県有地に全国各地から乳牛三〇〇頭、ジャージー種六〇頭が集合し、日頃の資質改良成果を競う。今回は、共進会のみでなく、本県の酪農・産業を紹介すると共に、多くの県民が参加できるように多彩なイベントを企画しています。事務局スタッフも最後の準備に追われているが、五年に一度の乳牛の祭典、是非お出かけ下さい。なお、会期中は、道路が混雑しますのでお早目にどうぞ。(Y)

パソコン一年生

デジタルカメラ

デジタルカメラの普及は凄まじく、携帯、webカメラを含めたら一家に一台どころか一人一台の時代と言っても過言ではありません。

さて、皆さんは通常のデジタルカメラを購入する場合どこに注目するでしょうか。まず画素数だと思います。この値が大きいほどデータ量が増加し、綺麗な画像が得られます。目安としては、ホームページ用、メールに添付して送るものなら数十万画素、L版印刷、年賀状なら二百万程度、A4サイズなら三百万以上といった感じでしょう。現在市販されているものなら軽くクリアしていると思います。次に形状。どんなに高性能でも持ち歩かなければ意味がありません。自分が撮る様子をイメージして、大きさ、重さ、厚さなどを考えてみてください。ズームも気になるところです。デジタルカメラには光学ズームとデジタルズームがあり、大雑把に説明しますと前者は従来のズーム、後者は画像を拡大しているだけです。記録メディアの種類も多種多様となりました。携帯のメディアと共通しておけばいざというときに便利かもしれません。あとは値段、電源、液晶画面の大きさなどを押さえたところですが、駆け足の説明となりましたが、参考になつたでしょうか？